

新型コロナウイルス感染症の基本計画への反映について

1 仙台市の対応状況

世界中で猛威を振るう新型コロナウイルス感染症（以下、「コロナ」という）は、本市においても、2月29日の感染者の確認以降、増加を続け、6月1日時点で累計65名となっている。約1か月の間、新たな感染者の発生はないものの、暮らしや地域経済に深刻な影響を及ぼしており、コロナ禍の底は見えない状況にある。

本市はこれまで、医療提供体制の整備をはじめとして感染拡大防止や地域経済の立て直しに向けた取り組みを進めてきた。また、このたび「仙台市新型コロナウイルス感染症対策プラン」（参考資料1）を策定し、第2波を見据えた医療体制の構築や生活困窮者への支援など喫緊に取り組むべき課題への対策のほか、臨時休校に伴う子どもたちの学習の問題や心のケアへの対応、地域経済の再生・活性化等に向けても段階的に対策を講じていくこととしている。

2 社会への中長期的な影響を踏まえて特に意識すべき視点

(1) 社会の変化への対応力

コロナのみならず、新たな感染症や自然災害など、今後も予想困難な危機が訪れるとの前提に立ち、危機に際してもまちづくりの挑戦を止めることがないよう、社会の変化への対応力を高めていくことが重要である。

- ① 働き方をはじめリモートやオンラインの導入の加速化を踏まえ、経済活動、教育・子育てなど様々な場面においてテクノロジーを積極的に活用することで、多様な選択肢を増やす取り組みを進めることが必要
- ② 一方で、テクノロジーの進展に伴う生活様式の変化に伴う格差の発生やリアルな接点の場の希薄化、メンタルヘルスへの悪影響、差別の広がりなど社会全体における非寛容性の増大等の諸課題にも適切に対応していくことが必要
- ③ 多様な主体の知恵や力を最大限に活かす観点から、コミュニケーションの多様化を図るなど、各主体がつながりを保ち、さらに深めながら協働の歩みを続けていくことが必要

(2) 仙台の優位性

大都市における過密リスクの表象化や働き方の変化から、企業のリスク分散の動きや居住地に対する価値観の変容など、大都市から地方への転換意識が徐々に高まることが想定される。その際の都市間競争の激化も見据えて、今こそ”The Greenest City”を掲げ、効果的に発信することで、「選ばれる都市」を目指していくことが重要である。

- ① 自然と都市機能が調和した「杜の都」の快適性やグリーンインフラの充実、東日本大震災やコロナを経て培ってきた危機への対応力など、仙台ならではの強みをより一層高める取り組みが必要
- ② 人や企業の流れを呼び込むためには、高度な機能を有するオフィスの確保や、中小企業の成長環境・起業環境など、都心部を中心としたビジネス環境の充実が必要。併せて、仙台の魅力の一つである豊かな自然環境を有する郊外エリアの活性化が必要

3 基本計画への反映の方向性

(1) 新たな杜の都へ

- ・まちづくりの理念である「挑戦を続ける、新たな杜の都へ～” The Greenest City” SENDAI～」は、仙台ならではの強みを掛け合わせて、生活環境やビジネス環境の質をより高めることで、都市間競争に挑んでいく趣旨も含んでおり、むしろコロナを踏まえてより一層意義深いものになったと認識。
- ・また、4つの目指す都市の姿についても、方向性は変わらないものと認識。
- ・一方、コロナは全世界・社会全体に広範な影響を及ぼしており、新総合計画に一定の影響を与えるものであることを鑑み、4つの都市個性のページの次に「社会の変化を力に変えるための視点」の記載を追加（P11）。

(2) チャレンジプロジェクト

- ・上記2における2つの視点は、各チャレンジプロジェクトが目指すものにも基本的に通ずると思われるが、コロナの影響の大きさを鑑み、内容はなお精査する必要があるものと認識。
- ・については、現時点で考えられるコロナの影響を事務局にてまとめた資料4「新型コロナウイルス感染症の基本計画への影響一覧」を踏まえ、ご審議いただきたい。

(了)